

俳人協会北海道支部 第十一回俳句大会成績

北海道知事賞

捨てに出て秋の愁ひをまた拾ふ

小樽 橋本 末子

北海道議会議長賞

軒に積む薪の切口冬に入る

小樽 熊川 陽子

札幌市長賞

本復の歩幅大きく種下ろし

北見 花木 研二

札幌市教育長賞

ひたすらに増毛の雪は横に降る

北見 土屋 加代子

北海道新聞社賞

客として訪ねる生家夕端居

札幌 西 千里

朝日新聞社賞

紙風船月の形にたたまるる

東京 佐藤 寿子

読売新聞社賞

秋風や疎遠をつなぐ震度七

北広島 高田 小幸

HBC北海道放送社賞

子と暮らす決心をして赤のまま

帯広 高橋 浪子

STV札幌テレビ放送社賞

指の間を少し緩めて種を播く

北見 太田 雅美

俳人協会北海道支部賞

カレー店多き古書街冬に入る	札幌	辰巳	奈優美
延命の治療いらぬと蜜柑剥く	札幌	中森	千尋
竜骨を晒す廃船花芒	札幌	生出	紅南
山眠る地震の手負ひの傷曝し	札幌	源	鬼彦
それぞれの寒さ持ち寄る朝の駅	古平	渡辺	嘉之
青鷺の水から生えてゐるごとし	札幌	陽	美保子
校歌にもなりたる山も眠りけり	札幌	今井	嘉子
塩鮭の塩ごとザクと切り分くる	苫小牧	市川	節子
雪の夜の影絵の狐こんと鳴く	積丹	成田	智世子
廃鋏は何も語らず水芭蕉	札幌	村松	良子
たんぽぽの絮の中なる空き家かな	函館	広瀬	むつき
新走すすめて馬の値を探る	登別	田中	静水
子の昼寝未来を歩く土踏まず	上土幌	横関	公晴
鉄路消え枯野は風のほしいまま	札幌	田湯	岬
悪人の眉ふとぶとと菊人形	帯広	太田	とも子
クリスマスやがて僧侶になる子ども	新十津川	金行	康子
刃物屋に束子も売られ十二月	札幌	飯川	久子

左記は一人一賞となっていていきますので、高得点句ですが「賞外」となりました。

新涼や牛百頭の咀嚼音	北見	花木	研二
白息を両手につつむ無人駅	北見	花木	研二
古帯の身に添ひやすし雁の頃	札幌	辰巳	奈優美
留学生日本の風邪を引きにけり	古平	渡辺	嘉之